

小国町における災害① - 羽越水害

羽越水害の概要

昭和42(1967)年8月28日から29日にかけて、新潟県下越地方から山形県南西部は記録的な集中豪雨に見舞われました。

総降水量の最大値は新潟県黒川村(現胎内市)の胎内第1ダム観測地点で748ミリを記録し、各地の山間部や渓谷で山肌が崩れ落ち、小国町や新潟県関川村、黒川村では土石流や鉄砲水、河川の氾濫によって多くの死者・行方不明者が出る大災害となりました。

小国町における被害

小国町では、8月28日の1日で、当時の年間降水量の約4分の1にあたる532ミリの雨が降りました。町内の全河川が氾濫したのをはじめ、各所で土砂崩れが続出し、死者2名を出したほか、家屋の流失・浸水、農地が流失・欠壊し、交通・通信施設が破壊され、未曾有の大災害をもたらしました。

その被害額は実に76億4,373万5千円の巨額にもおよび、当時の小国町の予算の20年分が一夜にして流されました。

参考:「おおみず」羽越水害の記録(小国町)、小国町ホームページ

人的被害	死者	2人	住家被害	全壊・流失	39棟
	行方不明	1人		半壊	366棟
	重傷	1人		床上浸水	233棟
	軽傷	19人		床下浸水	370棟

出典:「おおみず」羽越水害の記録(小国町)

被害の様子



濁流をこいで避難所へ (8月28日 夜)



右岸がもごとられた小国大橋
小国町側から小国小坂方面をのぞむ
(8月29日 午前4時40分頃)



記録的な集中豪雨により上流で山崩れが発生し、大量の倒木が水と一緒に流れてくんだり、小国橋に堆積しました。/小国小坂町(横川)



豪雨による洪水で横川筋の堤防がつつぎに決壊し、氾濫した川により町の中心部にあった沢山の農地が流され、また、土砂が堆積しました。/小国町(横川)

写真出典:
上2枚 小国町ホームページ/昭和42年「羽越水害」
下2枚 飯豊山系砂防事務所ホームページ/羽越水害40周年記念「語り継ぐ!羽越水害 子に孫に」



小国町を上空から望む



小国駅の構内の様子



飯綱橋に残った流木

町の孤立化

交通と通信の途絶

河川の氾濫と土砂崩落により、国道113号線と国鉄(現JR)米坂線が寸断され、町は陸の孤島と化しました。国道113号線が応急復旧により小型車の通行可能となったのは9月6日、一般車も通行ができるようになったのは9月9日。その間、町へは日赤および自衛隊のヘリコプターによる救援物資の空輸が行われました。

電話通信は、8月28日午後12時頃から途絶えがちでしたが、29日午前0時には完全に通信不能となりました。8月31日に1回線の復旧が行われるまでは、無線通信が、町外との連絡の唯一の方法でした。

孤立地区

町内の東部・南部地区へ通じる道路が完全に遮断され、本庁地区もあわせて768

世帯、3,440人(当時の全人口の22.1%)が孤立状態となりました。

町では、辺地7ヵ所にヘリポートを設けて輸送を行うとともに、着陸不能な6ヵ所については、空中投下を行いました。

また、応急物資の輸送のほか、巡回診療が実施され、山形県と日赤支部により、9月6日から20日までのあいだに4回にわたって、孤立地区巡回医療班が派遣されました。東部および南部への巡回診療は、山形からヘリコプターで医師と看護婦の輸送が行われ、実施されました。

東部地区への小倉林道の自動車通行が可能となったのは9月10日、南部方面への百子沢峯越林道は、地盤軟弱のため復旧工事が長引き、開通は9月28日でした。

参考:「おおみず」羽越水害の記録(小国町)